



# 2023 年度 年次報告書

国立大学法人山口大学  
地域レジリエンス研究センター防災・減災グループ  
2024 年 4 月

## はじめに

2023年7月、山口大学地域レジリエンス研究センター防災・減災グループは、旧山口大学地域防災・減災センターの活動を引き継ぎ、「環境DNA研究センター」および「グローバル環境・防災学研究会」と統合して新たなスタートを切りました。私たちは、自然災害や感染症の拡大、地方都市が直面する人口減少や高齢化、インフラの老朽化といった複合する諸課題に一体的に取り組み、持続可能な地域社会の構築を目指しています。

近年の豪雨災害を振り返ると、2020年7月の熊本県球磨川流域の豪雨において河川沿いの高齢者施設で多くの犠牲者が出たことが特筆されます。この災害の課題として、高齢者施設が洪水浸水想定区域内に立地していたが、浸水リスクへの警戒が弱かったこと、高齢者等に対する避難支援体制が不十分だったこと等が挙げられます。また、2021年7月に発生した静岡県熱海市伊豆山の土石流災害では、川の上流部にあった「盛り土」が大雨で崩落し、土石流となって下流域を襲い、多くの命が失われました。この事例は、人工物である盛り土が土砂災害リスクを引き起こす原因となり得ることを再認識させ、盛り土の規制強化が求められる結果となりました。

一方、地震災害の脅威も無視できません。2023年2月に発生したトルコ・シリア地震では甚大な建造物の被害が報告され、国際的な防災協力の重要性が再確認されました。さらに、2024年元日に能登半島で発生した大地震では、家屋の倒壊やライフラインの寸断、道路、港湾施設の損壊等が起り、多くの住民が長期かつ遠隔地への避難を余儀なくされました。この地震災害は、過疎化が進む地域の存続に深刻な影響を与え、地域防災計画を根本から見直す必要性を示しています。

中国地方に目を転じますと、土砂災害や河川の氾濫が常にリスクとなっており、温暖化の影響で、そのリスクがますます高まっています。加えて、近い将来の発生が危惧される南海トラフ地震とその前後の内陸地震の発生への備えも急務です。これらの災害リスクに対応するためには、災害情報の迅速な共有や避難支援体制の整備、防災インフラの強化に加え、地域住民や組織間の信頼関係を基にした防災体制の強化が不可欠です。

防災・減災グループは、これらの教訓を基に、地方都市が直面する複合的な課題に対応するため、学内外の31名の研究者が参加し、多角的な研究活動を展開しています。さらに、地域社会や各機関・団体との連携を強化し、防災・減災の取り組みを推進しています。

本報告書は、2023年度における防災・減災グループの活動成果をまとめたものです。ぜひお読みいただき、今後の地域防災活動に役立てていただければ幸いです。興味をお持ちの方は、ぜひセンター事務局までご連絡ください。

今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

2024年4月吉日  
地域レジリエンス研究センター  
防災・減災グループ長  
鈴木 素之



# 地域レジリエンス研究センター 防災・減災グループ 2023年度 年次報告

## 目次

### はじめに

<b>1. 防災・減災グループの構成</b> .....	3
1-1. メンバー.....	3
1-2. 部門メンバー.....	7
<b>2. 全体活動報告</b> .....	8
2-1. 概要.....	8
2-2. 活動報告.....	8
2-2-1. 講演会.....	8
2-2-2. セミナー.....	8
2-2-4. 国際シンポジウム・セミナー.....	9
2-2-5. 地域・社会貢献活動.....	11
2-2-6. 他団体との連携.....	13
2-2-7. 広報.....	13
<b>3. 部門活動報告</b> .....	14
3-1. 研究成果概要.....	14
<b>4. 個人活動報告</b> .....	18
A. 研究成果（researchmap URL）.....	18
B. 報道関係.....	19
C. 国際交流：外国人の受け入れ状況.....	19
D. 表彰・評価関係.....	19
E. 獲得研究費.....	19

### あとがき

# 1. 防災・減災グループの構成

## 1-1. メンバー

2024年3月31日現在、表1に示すように幅広い分野から31名がメンバーとなっている。

表1 防災・減災グループメンバー（2024年3月31日現在）

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
<b>【センター長】</b>			
鈴木 素之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	時間防災学 博士（工学）	【自然災害部門】部門長 & 【国際防災部門】 水・土砂災害、斜面災害、 時間防災学
<b>【副センター長】</b>			
牛尾 裕子	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・教授	公衆衛生看護学 地域看護学 博士（看護学）	【保健衛生部門】部門長 & 【環境・防災教育部門】 災害時保健衛生
榎原 弘之	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	地域計画学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】部門長 減災まちづくり、緊急災害調査
<b>【構成員】</b>			
赤松 良久	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	環境水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【海洋・気象部門】 & 【リスクマネジメント部門】 水・土砂災害、ウイルス
朝位 孝二	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	水理学 博士（工学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
足立 亮介	山口大学大学院創成科学研究科 電気電子情報系専攻・助教	制御理論 博士（情報科学）	【リスクマネジメント部門】 & 【自然災害部門】 ウイルス

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
網木 政江	山口大学大学院創成科学研究科 学術研究員	災害看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
鳩 心治	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	建築学 博士（工学）	【リスクマネジメント部門】 減災まちづくり
大澤 高浩	山口大学大学研究推進機構 先端科学イノベーション研究センター・教授	リモートセンシング工学 博士（工学）	【海洋・気象部門】 部門長 & 【国際防災部門】 & 【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 海洋気象
太田 岳洋	山口大学大学院創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻・教授	応用地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 災害地質学、緊急災害調査
緒方 彩乃	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・講師	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
楮原 京子	山口大学教育学部・准教授	自然地理学 博士（理学）	【自然災害部門】 & 【リスクマネジメント部門】 時間防災学
斎藤 美矢子	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・講師	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
鈴木 賢士	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・教授	気象学 博士（理学）	【海洋・気象部門】 気象学、雲物理学
高橋 征仁	山口大学人文学部・教授	社会心理学 文学修士	【環境・防災教育部門】 部門長 防災心理学
田畑 直彦	山口大学埋蔵文化財資料館・助教	考古学 文学修士	【自然災害部門】 災害と遺跡の立地

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
辻 智大	山口大学大学院創成科学研究科 地球圏生命物質科学系専攻・講師	地質学 博士（理学）	【自然災害部門】 災害地質学
鶴田 良介	山口大学大学院医学系研究科 先進救急医療センター・教授（センター長）	救急医療 博士（医学）	【保健衛生部門】& 【リスクマネジメント部門】 災害医療、災害時保健衛生
中島 伸一郎	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	岩盤力学 博士（工学）	【自然災害部門】& 【国際防災部門】 岩盤斜面災害
中正 和久	山口大学大学院創成科学研究科 電気電子情報系専攻・准教授	情報工学 博士（工学）	【保健衛生部門】& 【自然災害部門】 ヘルスケアシステム
中田 幸男	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	地盤工学・土質力学 博士（工学）	【自然災害部門】 土砂災害
樋口 隆哉	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・教授	環境衛生工学 博士（工学）	【保健衛生部門】 環境質評価、衛生環境
村上 祐里香	山口大学大学院医学系研究科 保健学専攻 地域・老年看護学講座 地域看護学分野・助教	公衆衛生看護学 地域看護学 修士（保健学）	【保健衛生部門】 災害時保健衛生
森 啓年	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士（工学）	【自然災害部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
森下 徹	山口大学教育学部・教授	歴史学 博士（文学）	【自然災害部門】 防災授業
山本 浩一	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	環境工学 博士（工学）	【国際防災部門】部門長 & 【自然災害部門】& 【海洋・気象部門】& 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害

氏名	所属部局・職名	現在の専門学位	担当部門
山本 晴彦	山口大学大学院創成科学研究科 農学系専攻・教授 (特命)	環境防災学 博士 (農学)	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 風水害、防災学習、避難計画
吉本 憲正	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地盤工学 博士 (工学)	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 水・土砂災害
渡邊 学歩	山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻・准教授	地震防災・耐震工学 博士 (工学)	【自然災害部門】 地震防災・橋梁耐震・豪雨災害
<b>【学外研究員】</b>			
白水 元	東海大学建築都市学部 土木工学科・特任助教	海岸工学 博士 (工学)	【自然災害部門】 & 【環境・防災教育部門】 & 【国際防災部門】 水・土砂災害、緊急災害調査
<b>【事務局】</b>			
山本 裕子	山口大学大学院創成科学研究科 学術研究員	環境工学 博士 (工学)	【国際防災部門】 衛生環境

【構成員】 50 音順

## 1-2. 部門メンバー

地域レジリエンス研究センター防災・減災グループは、旧地域防災・減災センター設立当初からの自然災害部門、リスクマネジメント部門、環境・防災教育部門、保健衛生部門の4部門と、増設された国際防災部門、海洋・気象部門のあわせて6部門からなる。各部門のメンバーを表2に示す。

表2 防災・減災グループ部門メンバー（2024年3月31日現在）

自然災害部門 19名	リスクマネジメント部門 6名	環境・防災教育部門 9名	保健衛生部門 8名	国際防災部門 6名	海洋・気象部門 4名
<b>【部門長】</b> 鈴木 素之  <b>【構成員】</b> 赤松 良久 朝位 孝二 足立 亮介 大澤 高浩 太田 岳洋 楳原 京子 田畑 直彦 辻 智大 中島 伸一郎 中正 和久 中田 幸男 森 啓年 森下 徹 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正 渡邊 学歩 白水 元	<b>【部門長】</b> 榊原 弘之  <b>【構成員】</b> 赤松 良久 足立 亮介 鷗 心治 楳原 京子 鶴田 良介	<b>【部門長】</b> 高橋 征仁  <b>【構成員】</b> 朝位 孝二 牛尾 裕子 大澤 高浩 太田 岳洋 山本 浩一 山本 晴彦 吉本 憲正 白水 元	<b>【部門長】</b> 牛尾 裕子  <b>【構成員】</b> 網木 政江 緒方 彩乃 斎藤 美矢子 鶴田 良介 中正 和久 樋口 隆哉 村上 祐里香	<b>【部門長】</b> 山本 浩一  <b>【構成員】</b> 大澤 高浩 鈴木 素之 中島 伸一郎 白水 元 山本 裕子	<b>【部門長】</b> 大澤 高浩  <b>【構成員】</b> 赤松 良久 鈴木 賢士 山本 浩一

【構成員】50音順



## 2. 全体活動報告

### 2-1. 概要

地域レジリエンス研究センター防災・減災グループでは、2023年度に国内向けの防災・減災講演会1回、時間防災学セミナー1回、まちの減災ナース育成研修3回、国際シンポジウム・セミナー2回を開催し、合計765名が参加した。詳細を2-2に示す。

### 2-2. 活動報告

#### 2-2-1. 講演会

最新の防災・減災の知識を広く一般に提供することを目的として、防災・減災に関わる様々な分野の専門家を講師に招いて行う「防災・減災講演会」シリーズを昨年に引き続き開催した（グローバル環境・防災学研究会と共催）。2023年度は表3に示すとおり第9回として2名の講師を招いて2部構成で開催し、民間企業、大学、その他一般から合計400名が参加した。なお、本講演会は公益社団法人土木学会認定CPD（継続教育）プログラムとなっており、希望する受講者には単位認定の受講証明書を発行し、技術者の継続教育にも貢献した。

表3 2023年度「防災・減災講演会」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第9回	2023年10月3日 13:30-16:50 常盤キャンパス社 建会議室での講演 をWeb配信 (Zoomウェビナ ー)	第1部 講師：安田 進 氏（東京電機大学 名誉教授、東京 電機大学総合研究所 客員教授） 演題：地震時の道路盛土の被害 第2部 講師：横田 聖哉 氏（東日本高速道路株式会社 技 術本部 シニアエキスパート） 演題：高速道路における最近ののり面災害と対策の動 向 <a href="https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/2607/index.html">https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/2607/index.html</a>	400名（内 対面13 名）

#### 2-2-2. セミナー

昨年度に引き続き、表4に示すとおり「時間防災学\*セミナー」を1回開催し、民間企業、大学、その他一般から136名が参加した（グローバル環境・防災学研究会と共催）。本セミナーは防災・減災講演会と同様、土木学会認定CPDプログラムとなっている。

#### ※時間防災学とは

本学が掲げる「時間学」と「防災学」を融合し、100～1000年の時間スケールで災害の起こり方と防災のあり方を考究する学術領域。工学、理学だけでなく歴史学、考古学、地理学、社会学、経済学、農学、医学など様々な分野の研究者を集め、文理融合した新しい防災研究領域として開拓していくことを目指している。

表 4 2023 年度「時間防災学セミナー」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第 6 回	2024 年 3 月 26 日 16:00-17:10 Web 開催 (Zoom ウェビナー)	講師：井上 公夫 氏 (一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構 専門研究員) 演題：関東地震 (1923) による土砂災害の概要とプールの逃避行、復旧・復興に果たした神戸の役割 <a href="https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/5151/index.html">https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/5151/index.html</a>	136 名

#### 2-2-4. 国際シンポジウム・セミナー

オンラインで “International Symposium on Peat Mass Movement and Peat-derived Carbon Transport in Peatland” を開催し、79 名が参加した。国際防災部門、海洋・気象部門の 2 名がパネルディスカッションのパネリストを務めた。また、2021 年 3 月の第 1 回、2022 年 3 月の第 2 回に引き続き、第 3 回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナー (The 3rd International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment) を開催し、50 名が参加した。詳細を以下に示す。

#### ■ “International Symposium on Peat Mass Movement and Peat-derived Carbon Transport in Peatland”

実施日時・場所：2023 年 9 月 9 日 17:00-21:00 Web 開催 (Zoom ミーティング)

共催：インドネシア国リアウ大学泥炭災害研究センター (CPDS)、インドネシア国ブンカリス高専

参加者数：79 名

講演内容：

##### 【基調講演】

1. Prof. Laurence Gill, Department of Civil, Structural and Environmental Engineering, Trinity College Dublin, Ireland  
“Ecohydrology and associated carbon dynamics of peatlands”
2. Dr. Shane Regan, The Scientific Advice and Research Directorate, National Parks and Wildlife Service, Dublin, Ireland  
“The role of peatlands in the global carbon cycle – sentinel observations from Ireland”

##### 【パネルディスカッション】

テーマ：“Peat mass movement issue in tropical peatland”

司会：Mr. Ahmad Muhammad, University of Riau, Indonesia

コメンテーター：Prof. Laurence Gill and Dr. Shane Regan

パネリスト：

Dr. Sigit Sutikno, University of Riau, Indonesia

Dr. Muhammad Yusa, University of Riau, Indonesia

Dr. Noerdin Basir, State Polytechnic of Bengkalis, Indonesia

Prof. Koichi Yamamoto, Yamaguchi University, Japan

Prof. Takahiro Osawa, Yamaguchi University, Japan

Dr. Yasuyuki Nakagawa, Port and Airport Research Institute, Japan

ショートプレゼンテーション

1. Dr. Sigit Sutikno “Peatland degradation, restoration and bog burst occurrence in tropical peat island in Riau”
2. Prof. Koichi Yamamoto “Peat-derived particulate organic matter in aquatic environment of Bengkalis Island”

■ 第3回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナー (The 3rd International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment)

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/news/3956/index.html>

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/eng/en/info/330/index.html>

実施日時・場所：2024年3月23日 8:50-16:05 Web開催 (Zoom ミーティング)

共催：山口大学工学部社会建設工学科、グローバル環境・防災学研究会

参加者数：50名 (日本、インドネシア、東ティモール、バングラデシュ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、カナダの8か国)

講演者および演題：

【招待講演】

1. Prof. Masahiko Sekine, Professor, Department of Civil and Environmental Engineering, Faculty of Engineering, Yamaguchi University  
“Toward a New Phase of the Timor-Leste National University Support Project”

【特別セッション：2021年4月に東ティモールで発生した洪水災害からの復興状況】

1. Prof. Koichi Yamamoto, Department of Civil and Environmental Engineering, Faculty of Engineering, Yamaguchi University  
“Response of Yamaguchi University to the Flood Disaster in Timor-Leste in April 2021”
2. Mr. Kesuke Ujike and Ms. Fonseca Patricia, JICA Timor-Leste Office  
“Outline of Flood Disaster in Timor-Leste”
3. Dr. Benjamim Hopffer Martins, Lecturer, Universidae Nacional Timor Lorosa’e, Timor-Leste  
“Mass Wasting and Flood Risk Mitigation Efforts in the City of Dili, and Existing Conditions” (video)
4. Mr. Hugo Ximenes, Lecturer, Universidae Nacional Timor Lorosa’e, Timor-Leste  
“Determination of Causes of the Poor Performance of Timor-Leste’s Roads and Proposals for Improvement” (video)
5. Mr. Leandro Madeira Branco, Doctoral Student, Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi University  
“Sedimentation Challenge and Opportunity: Harnessing of Local Sedimentation for the Construction Material”

【山口大学卒業生・在学生による口頭発表セッション】

1. Fernandes Abel (Yamaguchi University)

- “Timor-Leste Deforestation”
2. Joantina Belo Ornai (Yamaguchi University)  
“Groundwater Pollution in Production Wells of Dili City, Timor-Leste”
  3. Rozy Pratama and Muhammad Rizki Romadhan (Politeknik Negeri Bengkalis, Indonesia)  
“Coagulation Experiment of Peat Extract and Peat Ground Water”
  4. Md Atikul Islam (Khulna University, Bangladesh)  
“Concurrent Impacts of COVID-19 and Natural Disasters on Shrimp Enterprises in the Southwest Coastal Region of Bangladesh”
  5. Ho Thanh Truc (Yamaguchi University)  
“Impact of In-Camera Distortion Correction on Systematic Deformation in Photogrammetry Using Structure from Motion and Unmanned Aerial Vehicle: a Case Study in Constant-Pitch Meandering Flight Design”
  6. Pedro Junior Fernandes (Yamaguchi University)  
“A Multi-Satellite Approach to Delineating Flood Extent and Land Cover Changes in Dili, Timor-Leste”
  7. Putu Edi Yastika (Universitas Mahasaraswati Denpasar, Indonesia)  
“Mapping Flood Prone Areas Based on Geographic Information Systems and AHP (case study: Singaraja, Bali, Indonesia)”
  8. Mega Mirasaputri Cahyanti (Yamaguchi University)  
“Smong and Tsunami Tendenko as Traditional Disaster Prevention in Indonesia and Japan”

#### 2-2-5. 地域・社会貢献活動

研究とあわせて地域・社会貢献活動の一環として、以下のとおりまちの減災ナース育成研修を行った。その他、メンバーが災害発生時などに調査を行うとともに、自治体などに助言を行っている。

#### ■ 宇部市藤山・鶺の島・新川地区まちの減災ナース育成研修

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/eventreport.html>

2023年10月28日、11月25日、12月16日、保健衛生部門が中心となり、昨年度の宇部市藤山・鶺の島・新川地区に続き宇部市厚南・厚東地区においても「まちの減災ナース」育成研修会を実施した。研修会の詳細は表5に示す。11名が3回の研修を終えて「まちの減災ナース」に新たに加わった。

表5 「宇部市厚南・厚東地区まちの減災ナース育成研修」実施状況

回	日時・場所	講師・演題	参加人数
第1回	2023年10月28日 9:30-15:30 宇部市厚南市民センター	1) 宇部市の地域特性と防災の取り組み（宇部市防災危機管理課副課長 江本賢二） 2) ハザードマップの活用 (1) 土砂災害（山口大学地域レジリエンス研究センター防災・減災グループ長、大学院創成科学研究科教授 鈴木素之） (2) 洪水・内水・津波・高潮（山口大学大学院創成科学研究科准教授 森啓年） 3) 水害時における高齢者の避難行動支援（山口大学大学院創成科学研究科教授 榊原弘之） 4) 宇部市における要配慮者の対応と課題（宇部市健康福祉部地域福祉課課長 牧田晶生）	27名
第2回	2023年11月25日 10:00-16:00 宇部市厚南市民センター	1) 地域コミュニティ主体の防災・減災活動（山口大学） 2) 厚南・厚東地区の防災・減災への取り組み（ミニシンポジウム） (1) 自主防災会の立場から ・厚南地区（厚南地区自主防災会会長 新城寛徳） ・厚東地区（厚東地区自主防災会会長 溝上明） (2) 教育の立場から（宇部市立厚東小学校校長 西嶋智） (3) 社会福祉施設の立場から（医療法人社団厚心会ホスピサイドプレイス 福島彰子） (4) 地域包括支援センターの立場から（宇部市西部第1地域包括支援センターセンター長 国重直美）	47名
第3回	2023年12月16日 9:30-14:30 宇部市厚南市民センター	1) 避難所運営と避難者の健康管理の仕組み（宇部市健康福祉部地域福祉課課長 牧田晶生、係長 宮原美起） 2) 地区の防災福祉コミュニティづくりを目指して～地区の防災・減災に関する課題とまちの減災ナースとしての今後の取り組み（グループワーク、発表）	26名

## 2-2-6. 他団体との連携

自然災害研究協議会中国地区部会の研究発表会を以下のとおり共催した。

### ■ 自然災害研究協議会中国地区部会

自然災害研究協議会中国地区部会がオンライン開催する 2024 年 2 月 3 日の「自然災害研究協議会中国地区部会令和 5 年度研究発表会」を共催した（参加者人数 63 名）。また事務局として研究発表会の運営業務および研究論文集の作成を行った。研究発表会では大学、企業から多岐の内容にわたる 16 件の一般発表とともに、山口大学大学院創成科学研究科を退職され現在同研究科の非常勤講師を務める村上ひとみ氏による特別講演「2023 年トルコ・カフラマンマラシュ地震（M7.8）の現地調査：震度と被害分布」が行われた。

開催報告：<https://www.ndrc-chugoku.org/meeting.html>

研究論文集：<https://www.ndrc-chugoku.org/proceedings/ronbun10.html>

## 2-2-7. 広報

昨年度に引き続き、地域レジリエンス研究センター防災・減災グループのホームページ、Facebook にてイベントの広報や報告などを行った。

日本語 HP：<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index.html>

英語 HP：[https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index\\_eng.html](https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cldpm/index_eng.html)

Facebook：<https://www.facebook.com/Yamaguchi.Univ.CLDPM>

### 3. 部門活動報告

#### 3-1. 研究成果概要

##### 1) 被災ポテンシャルの歴史的変遷の把握（自然災害部門）

2023年度には、秋田県の雄物川流域に位置する大曲、刈和野、九升田、強首の各地区を対象として、ジオスライサーによる調査や土の物理試験、炭化物の放射性炭素年代測定、さらに歴史書の補充調査を実施した。その結果、過去の洪水履歴が残した層状の痕跡と、歴史書に記された災害記録が一致することを確認し、一部の成果を論文として発表した。

これに並行して、平成30年7月豪雨で土石流が発生した広島市東区における土石流発生履歴の調査研究も進めた。この調査により、層厚約0.6mのシルトの堆積速度が4.8mm/年、層厚約0.24mの腐植土の堆積速度が3.7mm/年と算定された。この値は、木曾川デルタの粗粒分を含む地層の堆積速度（1.9～4.6mm/年）と類似しており、ほぼ妥当であると結論づけた。また、広島地域の花崗岩地帯における土石流発生間隔150年～400年にも近いことが判明した。これらの調査結果を基に、溪流における土砂量、堆積速度、安定限界土砂量、土石流発生間隔から土石流発生の切迫度を算出するモデルを構築した。

さらに、山口県防府市の佐波川流域および島田川流域を対象に、地形解析に基づき、豪雨による土砂や洪水氾濫の発生ポテンシャルを評価する判定フローを作成し、この成果を論文発表した。また、広島地域に対しても広域の解析を行い、この手法の適用性を検討した。加えて、先史時代以降の集落変遷や災害・環境への対応について、人新世の視点から自然環境との関わり方の変遷を長期的に検討し、こちらの成果も論文として発表した。

##### 2) デマンド交通を活用した災害時避難支援の実現に向けた課題検討（リスクマネジメント部門）

災害時の人的被害を軽減するためには、住民の避難の実行が重要である。早期避難の実行には近隣からの声かけも有効であるとされる。一方、近年ではドアトゥドアのデマンド交通が各地で普及しつつある。そこで本部門ではこのデマンド交通を災害時の避難支援に活用する方策について具体的に検討している。今年度の実施内容は以下のとおりである。

##### ● 宇部市厚南地区の高齢者を対象としたアンケート調査の実施

宇部市厚南地区は宇部市の西部に位置し、2023年10月1日現在、住民基本台帳人口10534名、そのうち65歳以上人口3413名、高齢化率は32.4%である。厚南地区の主要な災害リスクとして、地区の東側を流れる厚東川の洪水、南方の周防灘からの高潮等が挙げられる。1942年の周防灘台風においては、当地区を含む宇部市は高潮災害により甚大な被害が記録されている。このように、厚南地区は水害により広範囲が浸水する可能性があり、また1万人以上が居住していることから、早期避難は重要な課題であると言える。

以下にアンケート調査の実施概況を示す。

調査対象：宇部市の住民基本台帳より、①厚南地区在住（ただし浸水リスクの低い2自治会区は除外）、②65歳以上の2条件を満足する500名を無作為抽出

配布回収方法：郵送配布、郵送回収

実施時期：2023年12月（11月29日発送、12月25日締切）

2024年1月5日時点で、返信数は292名、回収率は58.4%となった。

回答者自身の健康状態については、介護保険認定者は全体の12.7%、障害者認定者は8.6%であった。「介護予防のための生活機能評価」のうち運動能力（5点満点）の分布は図1に示す通りであり、介護予防の対象となる特定高齢者の基準である3点以上の回答者は全体の26.4%であった。運動能力に不安を感じる高齢者が地域に一定数居住していることを示しており、この不安が早期避難への躊躇につながり得ると考えられる。

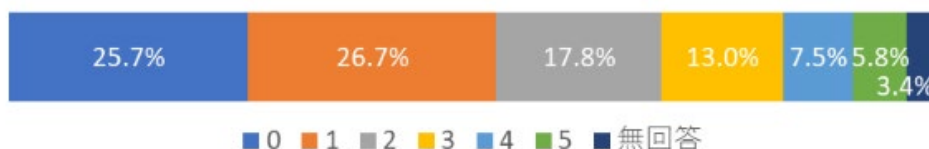


図1 運動能力得点（5点満点）の分布

災害リスクに対する認識として、先述の周防灘台風の被害について「詳しく知っている」としたのは14.4%に留まり、58.6%は「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」、25.3%は「知らない」としており、高齢者であっても70年以上前の災害についての伝承が容易でないことも示された。洪水・高潮のハザードマップについては「内容を覚えている」のは26.4%に留まっており、地域の潜在的災害リスクの認知についても十分ではないと考えられる。

実際の避難行動については、84.0%が「避難したことはない」と回答している。また警戒レベルごとの避難意向を尋ねたところ、高齢者等避難（警戒レベル3）での避難意向を示したのは回答者の10.3%であり、「避難指示（警戒レベル4）（26.7%）」、「緊急安全確保（警戒レベル5）（34.6%）」など、大規模災害時に避難遅れが生じかねない回答となった（図2）。

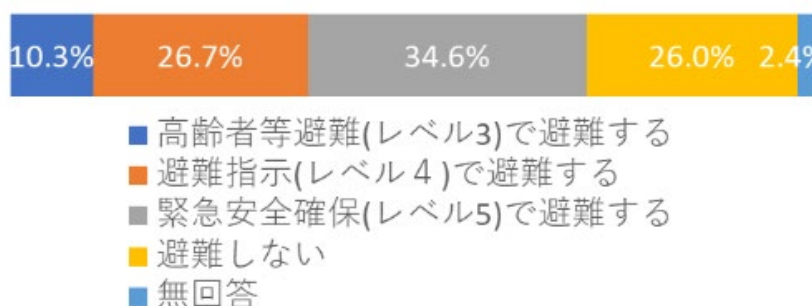


図2 避難タイミングの意向

このような中で、デマンド交通による避難支援の効果の可能性を表6にまとめた。デマンド交通による避難支援が導入されることで、高齢者等避難（警戒レベル3）段階で避難する意向を示す人が3.7倍となった。これは筆者らの既往研究よりも高い倍率である。



表 6 デマンド交通による避難支援の効果

	292人中
A.デマンド避難関係なくレベル3で避難する人	30人10.3%
B.デマンドで避難するor多分避難する人	105人36.0%
C.デマンド避難ができればレベル3で避難する増加人数	82人28.1%
D.デマンド避難可能な状況でレベル3で避難する人	112人38.4%
倍率(D/A)	3.7

### 3) 「まちの減災ナース育成研修」による地区防災福祉コミュニティづくりの支援とモデル開発 (保健衛生部門)

2022年度に実施した「地区防災関係住民との協働による（校区ぐるみの）まちの減災ナース育成研修」を戦略とし、「地区防災福祉コミュニティ形成」をEBI（エビデンスに基づく介入）とする実装研究のパイロットスタディより、戦略の阻害・促進要因24項目を明らかにした。また、同研修のプログラム評価、研修終了時の実装アウトカム評価を行い、3題の学会発表をした。この結果に基づき、2023年度は、地区防災計画制度の理念を強調した研修プログラムへ修正するとともに、基礎知識に関する動画コンテンツを作成し事前学習として配信するなど戦略を精錬し、宇部市内の災害想定異なる2地区（厚南・厚東地区）で研修を実施した。地区防災関係住民、地域包括支援センター・宇部市の保健福祉専門職等と協議を重ね、2023年10月～12月（月1回）、3回コースのまちの減災ナース育成研修を開催、11名のまちの減災ナースを輩出した（写真1）。2023年11月には、下関市と宇部市のまちの減災ナース交流集会を、2024年3月には、2022、2023年度の宇部市まちの減災ナース育成研修修了生の集い（写真2）を開催し、各地区の減災活動の取り組みに関する情報共有や意見交換を行った。

また、下関市長府地区まちの減災ナース育成研修の中期的評価を目的として、地区防災関係住民を対象とした研修2年後における調査を行った。2024年度はその分析を進めるとともに、同様に宇部市藤山・鶴の島・新川地区まちの減災ナース育成研修の2年後評価を行い、2021年度から取り組んできた‘水害などを想定した防災モデル（地区防災福祉コミュニティ形成モデル）開発プロジェクト’の成果をまとめていく予定である。



写真1 まちの減災ナース育成研修修了生



写真2 宇部市まちの減災ナース育成研修修了生の集い

#### 4) 防災に携わる海外研究者とのネットワークの継続（国際防災部門）

国際的な防災・減災、環境問題に取り組む国内外の専門家を招いた国際防災・環境セミナーを2回開催した。一つは International Symposium on Peat Mass Movement and Peat-derived Carbon Transport in Peatland で、部門長の山本浩一が公益社団法人水環境学会から得た国際ワークショップを開催するための助成金（JSWE-IDEA 国際活動賞）を利用してアイルランドの研究者2名に基調講演を依頼し、パネルディスカッションでインドネシアのリアウ大学、ブンカリス高専の研究者を交えて議論を行うことで、泥炭地研究の新しい繋がりができた。また第3回山口大学国際同窓防災・環境オンラインセミナー（The 3rd International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment）では、特に東ティモールで2021年4月に発生した洪水災害のその後にに関する特別セッションを実施した。東ティモールの洪水災害に関する研究者同士の研究協力は災害発生時から続いている（シンポジウム、セミナーの詳細は2-2-4参照）。

2023年2月26日～3月6日に、JSPS さくらサイエンスプログラムの一環でインドネシア・リアウ大学から学生5名、ブンカリス高専から講師1名、学生5名の合計11名を本学工学部に招き、「熱帯泥炭地での飲料水・生活用水確保のための水処理技術研修」を実施した。インドネシアの泥炭地では河川水、地下水とも泥炭由来の着色があり除去が難しく、安全な飲料水や生活用水の確保に苦慮しており、本研修では現地の水質にあわせた処理についての講義、実習等を行った。途上国で安全な水を確保することは、日本での災害時の水確保との共通点も多く、帰国後も現地での研修などを通じて継続的に両校との交流を継続している。

また、英国ロンドン大学（UCL）の Institute for Risk and Disaster Reduction（リスク&防災研究所）の研究者との交流も継続中であり、今後も継続して防災に携わる海外研究者とのネットワークを維持していく予定である。

## 4. 個人活動報告

メンバーの活動について示す。学術雑誌等、国際会議における発表、国内学会・シンポジウム等における発表、学会運営等は、researchmap (<https://researchmap.jp/>) に掲載のため、A には研究成果として各メンバーの Research map ページの URL を示す。B は報道関係、C は国際交流、D は表彰・評価関係、E は獲得研究費について示す。

### A. 研究成果 (researchmap URL)

氏名	researchmap URL
鈴木 素之	<a href="https://researchmap.jp/taishin-ken">https://researchmap.jp/taishin-ken</a>
牛尾 裕子	<a href="https://researchmap.jp/yushio-20201022">https://researchmap.jp/yushio-20201022</a>
榊原 弘之	<a href="https://researchmap.jp/read0054929">https://researchmap.jp/read0054929</a>
赤松 良久	<a href="https://researchmap.jp/yakamats">https://researchmap.jp/yakamats</a>
朝位 孝二	<a href="https://researchmap.jp/ASAIKoji">https://researchmap.jp/ASAIKoji</a>
足立 亮介	<a href="https://researchmap.jp/Ryosuke-Adachi">https://researchmap.jp/Ryosuke-Adachi</a>
網木 政江	<a href="https://researchmap.jp/7000023523">https://researchmap.jp/7000023523</a>
鳩 心治	<a href="https://researchmap.jp/s-ikaruga">https://researchmap.jp/s-ikaruga</a>
大澤 高浩	<a href="https://researchmap.jp/7000021888">https://researchmap.jp/7000021888</a>
太田 岳洋	<a href="https://researchmap.jp/KujuYufu_1964">https://researchmap.jp/KujuYufu_1964</a>
緒方 彩乃	<a href="https://researchmap.jp/7000022060">https://researchmap.jp/7000022060</a>
楮原 京子	<a href="https://researchmap.jp/1051-K">https://researchmap.jp/1051-K</a>
斎藤 美矢子	<a href="https://researchmap.jp/sai-m">https://researchmap.jp/sai-m</a>
鈴木 賢士	<a href="https://researchmap.jp/7000022367">https://researchmap.jp/7000022367</a>
高橋 征仁	<a href="https://researchmap.jp/read19990710">https://researchmap.jp/read19990710</a>
田畑 直彦	<a href="https://researchmap.jp/read0188512">https://researchmap.jp/read0188512</a>
辻 智大	<a href="https://researchmap.jp/tsujitomo">https://researchmap.jp/tsujitomo</a>
鶴田 良介	<a href="https://researchmap.jp/Okiube12-38">https://researchmap.jp/Okiube12-38</a>
中島 伸一郎	<a href="https://researchmap.jp/7000022373">https://researchmap.jp/7000022373</a>
中正 和久	<a href="https://researchmap.jp/kazuhisa.nakasho">https://researchmap.jp/kazuhisa.nakasho</a>
中田 幸男	<a href="https://researchmap.jp/YUKIO_NAKATA">https://researchmap.jp/YUKIO_NAKATA</a>
樋口 隆哉	<a href="https://researchmap.jp/read0053759">https://researchmap.jp/read0053759</a>
村上 祐里香	<a href="https://researchmap.jp/m-yurika">https://researchmap.jp/m-yurika</a>
森 啓年	<a href="https://researchmap.jp/hirotoshi-mori">https://researchmap.jp/hirotoshi-mori</a>

氏名	researchmap URL
森下 徹	<a href="https://researchmap.jp/7000021919">https://researchmap.jp/7000021919</a>
山本 浩一	<a href="https://researchmap.jp/jo4gjl-jf8afn">https://researchmap.jp/jo4gjl-jf8afn</a>
山本 晴彦	<a href="https://researchmap.jp/read0185153">https://researchmap.jp/read0185153</a>
吉本 憲正	<a href="https://researchmap.jp/nyoshi_YU">https://researchmap.jp/nyoshi_YU</a>
渡邊 学歩	<a href="https://researchmap.jp/gakuho_093">https://researchmap.jp/gakuho_093</a>
白水 元	<a href="https://researchmap.jp/shiro567">https://researchmap.jp/shiro567</a>

## B. 報道関係

### 新聞

掲載日	新聞名	タイトル	該当者
2023年6月6日	読売新聞山口版 朝刊	梅雨期水害 万全の備えを	朝位 孝二
2023年8月26日	中国新聞 朝刊	特集 今を読む「瀬戸内法 50年 干潟の多様性支えたい」 <a href="https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/351648">https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/351648</a>	山本 浩一
2023年11月27日	宇部日報	連絡網作成などで意見交換「まちの減災ナース」育成研修会【宇部】 <a href="https://ubenippo.co.jp/2023/11/27/2926711/">https://ubenippo.co.jp/2023/11/27/2926711/</a>	保健衛生部門

## C. 国際交流：外国人の受け入れ状況

### 山本 浩一

インドネシア国リアウ大学・学生5名、インドネシア国ブンカリス高専・講師1名、学生5名)  
 /JST さくらサイエンスプログラム C. 科学技術研修コース「熱帯泥炭地での飲料水・生活用水確保のための水処理技術研修」/2024年2月26日～3月6日

## D. 表彰・評価関係

### 太田 岳洋

日本応用地質学会優秀ポスター賞/奈良ヶ谷河流域の重力変形地域における地質構造と崩壊深度の関係/瀧本真理, 太田岳洋/2023/10/5  
 全地質調査業協会連合会功績賞/2023/10/20

## E. 獲得研究費

### 【科研費】

### 鈴木 素之

科研費・挑戦的研究（萌芽），代表者，土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土

砂災害切迫度算定モデルの検証, 2022-06-30 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (A), 代表者, 地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明, 2019-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 田口 岳志), 堤体盛土を対象とした原位置簡易型ベンダーエレメント法の適用性検証に関する研究, 2021-04-01 – 2024-03-31

### 牛尾 裕子

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 石丸 美奈), 認知症を有する人中心のケアリング・コミュニティ協働デザインのツール作成と検証, 2021-04-01 – 2025-03-31

### 榎原 弘之

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 地方都市圏における持続可能な公共交通体系構築のための合意形成プロセスに関する研究, 2023-04-01 – 2026-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 谷本 圭志), 過疎地域公共交通の統合的ビジネスモデルの構築に関する研究, 2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 福山 敬), 立地とアクセシビリティの評価による地方中小都市のコンパクト化の進捗の分析, 2021-04-01 – 2024-03-31

### 赤松 良久

科研費・挑戦的研究 (開拓), 代表者, 人工 DNA トレーサーによる流域の水・土砂動態の可視化, 2022-06-30 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (A), 代表者, 流域におけるノロウイルスの動態把握と流行予測, 2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 鈴木 素之), 地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明, 2019-04-01 – 2024-03-31

### 朝位 孝二

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 自己組織化マップを用いた前線系気象場と台風系気象場の分類と防災情報提供への応用, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 山本晴彦), 水害常襲地における微地形情報と実績浸水深に基づく洪水解析による水害リスクの再評価, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・特別研究促進費, 分担者 (代表者: 佐竹 健治), トンガ海底火山噴火とそれに伴う津波の予測と災害に関する総合調査, 2022-02-15 – 2024-03-31

### 足立 亮介

科研費・若手研究, 代表者, スケーラブルな通信に基づくセンサネットワーク上の高精度状態推定, 2020-04-01 – 2024-03-31

### 鷗 心治

科研費・基盤研究 (B), 代表者, コンパクトシティ計画の国際比較からみた地方都市のまちづくりデザイン手法の提案, 2021-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 岡松 道雄), 境界領域における建築インターフェイスの一体型滞在快適性評価に関する研究, 2022-04-01 – 2026-03-31

### 大澤 高浩

科研費・特別研究員奨励費，代表者，マレーシア農村部における水害および気候変動における水供給について，2022-11-16 – 2025-03-31

### 太田 岳洋

科研費・挑戦的研究（萌芽），分担者（代表者：鈴木 素之），土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土砂災害切迫度算定モデルの検証，2022-06-30 – 2025-03-31

### 緒方（木嶋）彩乃

科研費・基盤研究（C），代表者，ネグレクトの支援方針の意思決定における支援者特性アセスメントツールの開発と検証，2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究（C），分担者（代表者：斎藤 美矢子），1歳6か月児健診カンファレンスシートを活用した地域の健康課題発見モデルの開発，2020-04-01 – 2024-03-31

### 楢原 京子

科研費・基盤研究（C），代表者，鮮新世以降の地形発達に着目した日本海東縁沿岸部に潜む活構造の解明，2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・挑戦的研究（萌芽），分担者（代表者：鈴木 素之），土石流発生サイクルと不安定土砂の堆積速度を導入した土砂災害切迫度算定モデルの検証，2022-06-30 – 2025-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：後藤 秀昭），海底段丘と海底活断層から構築する相模トラフ周辺の新たな地殻変動モデル，2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究（A），分担者（代表者：鈴木 素之），地盤履歴と災害伝承を融合した「時間防災学」視点でのミレニアム土砂・洪水氾濫の解明，2019-04-01 – 2024-03-31

### 斎藤 美矢子

科研費・基盤研究（C），代表者，1歳6か月児健診カンファレンスシートを活用した地域の健康課題発見モデルの開発，2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：伊東 美佐江），妊娠初期から始めるうつ病への移行を防ぐセルフモニタリングの実証研究，2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究（C），分担者（代表者：緒方（木嶋）彩乃），ネグレクトの支援方針の意思決定における支援者特性アセスメントツールの開発と検証，2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究（C），分担者（代表者：牛尾裕子），「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法，2022-04-01 – 2025-03-31

### 高橋 征仁

科研費・基盤研究（C），代表者，庇護主義を超えてーポストコロナ時代のリスク意識に関する国際比較研究，2021-04-01 – 2025-03-31

### 田畑 直彦

科研費・基盤研究（C），代表者，弥生時代高地性集落研究の原点を見直す，2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究（B），分担者（代表者：森岡秀人），弥生時代高地性集落の列島の再検証，2020-04-01 – 2024-03-31

### 辻 智大

科研費・基盤研究（C），代表者，海は火砕流の移動を抑制するか？阿蘇4火砕流分布と海域の比

較, 定置温度からの制約, 2022-04-01 – 2025-03-31

#### 中島 伸一郎

科研費・基盤研究 (B), 代表者, 小規模分散型治水施設としての舗装構造の治水効果と力学耐久性の検証, 2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 緒方 奨), 岩盤内亀裂生成後の長期透水性変化の実像を導くマルチスケールシミュレータの開発, 2022-04-01 – 2026-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 岸田 潔), 地熱開発に資する損傷理論と THMC 連成を融合した岩石き裂進展シミュレータの開発, 2021-04-01 – 2024-03-31

#### 中正 和久

科研費・基盤研究 (A), 分担者 (代表者: 下井 信浩), ピエゾ極限センサを用いたインフラ構造物の簡易自律型健全性モニタリングシステム, 2020-04-01 – 2024-03-31

#### 中田 幸男

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 国際ラウンドロビン解析による地盤工学の不連続体解析を検証できるベンチマークの開発, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 吉本 憲正), 二酸化炭素の混合物質ハイドレートによる海底地盤改良技術の開発とカーボンリサイクル, 2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究 (B), 分担者 (代表者: 米田 純), 3次元構造フィルターによる新たな土粒子濾過技術の開発, 2023-04-01 – 2027-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 吉本 憲正), メタンハイドレート生産に加熱法は適さないのか? – 熱・流体移動特性の解明と評価 –, 2020-04-01 – 2024-03-31

#### 樋口 隆哉

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 悪臭発生現場における迅速・正確な臭気モニタリングのための嗅覚測定パッケージの作製, 2022-04-01 – 2025-03-31

#### 村上 祐里香

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 牛尾 裕子), 「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法, 2022-04-01 – 2025-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 斎藤 美矢子), 1歳6か月児健診カンファレンスシートを活用した地域の健康課題発見モデルの開発, 2020-04-01 – 2024-03-31

#### 森下 徹

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 西国の「城下町域」に関する基礎的研究, 2022-04-01 – 2026-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 三田 智子), 岡山藩領における村落構造と<地帯構造>についての基礎的研究, 2020-04-01 – 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者 (代表者: 町田 哲), 近世山里の生業・流通・支配に関する構造的論研究 – 列島4地域の比較類型から –, 2020-04-01 – 2024-03-31

#### 山本 晴彦

科研費・基盤研究 (C), 代表者, 水害常襲地における微地形情報と実績浸水深に基づく洪水解析による水害リスクの再評価, 2022-04-01 – 2025-03-31

#### 吉本 憲正

科研費・基盤研究 (B), 代表者, 二酸化炭素の混合物質ハイドレートによる海底地盤改良技術の開発とカーボンリサイクル, 2023-04-01 - 2027-03-31

科研費・基盤研究 (C), 代表者, メタンハイドレート生産に加熱法は適さないのか? - 熱・流体移動特性の解明と評価 -, 2020-04-01 - 2024-03-31

### 白水 元

科研費・若手研究, 代表者, 干出時の地下水位変動による底質性状変化が干潟の地形変化に与える影響の解明, 2021-04-01 - 2024-03-31

科研費・基盤研究 (C), 分担者, (代表者: 朝位 孝二), 自己組織化マップを用いた前線系気象場と台風系気象場の分類と防災情報提供への応用, 2021-04-01 - 2024-03-31

### 【受託研究】

### 赤松 良久

国土交通省中国地方整備事務局山口河川国道事務所, 流域治水×グリーンインフラを実現する治水・環境の調和型河川管理法に関する研究, 2023/4/3~2026/3/31

国土交通省中国地方整備事務局三次河川国道事務所, オオカナダモ繁茂管理に関する研究, 2023/4/1~2026/3/31

国土交通省中国地方整備事務局浜田河川国道事務所, 江の川における置き土が環境に与える影響についての研究, 2023/4/1~2026/3/31

### 楢原京子

西日本旅客鉄道株式会社, 土地条件と社会の関係性に基づく災害事象の体系化, 2023/6~2024/3

### 【共同研究】

### 赤松 良久

大林組・日本工営共同研究, 環境 DNA を活用したグリーンインフラの機能評価, 2022/9~2024/3  
山口県建設技術センター 山口県官学共同研究, 衛星画像による河道形状および河川植生繁茂の時間空間変化の把握, 2021/5~2024/3

日本工営株式会社, 【流域環境学講座 (日本工営共同研究講座)】 流域環境評価ツールとその活用手法の開発, 2019/8/1~2024/3/31

九州大学共同研究 (河川砂防分担), 大規模な洪水攪乱下での河川構造の複雑性の機能と河川生態系の保全・回復に関する研究, 2020/6 - 2026/3

### 【その他の研究助成】

鈴木 素之・榊原 弘之・牛尾 裕子・赤松 良久・斎藤 美矢子・網木 政江・緒方 彩乃・村上 祐里香・鶴田 良介・山本 浩一・吉本 憲正・森 啓年・楢原 京子

鹿島学術振興財団特定テーマ研究助成, 超高齢化時代におけるシン・ウベ方式によるレジリエンスシティの創成, 2023年4月1日~2024年3月31日

### 牛尾 裕子

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団, 代表者, へき地の地域包括ケアを担う看護人材育成・確保循環型システム構築に向けた現状調査, 2023年8月~2025年9月



### 牛尾 裕子・網木 政江

社会技術研究開発センター，分担者（代表者：内平 隆之），孤立・孤独予防に資する近隣社会環境の多様性の可視化による戦略的プレイスメイキング，2023年10月～2027年3月

### 太田 岳洋・辻 智大

日本国土開発未来研究財団学術研究助成，定量化地生態学的手法による斜面災害危険度評価手法の開発，2021年10月～2024年9月

### 森 啓年

中国建設弘済会，技術開発支援事業助成，代表者，海岸・河川沿い道路の空洞及び陥没の発生・発達過程に関する研究，2023年4月1日～2025年3月31日

国土技術研究センター・研究開発助成，代表者，越水した場合であっても「粘り強い河川堤防」の耐浸透性能に関する研究，2022年4月1日～2024年3月31日

### 山本 晴彦

日本国土開発未来研究財団研究助成，平成・令和期に発生した大規模水害における浸水想定区域の土地利用変遷と水害リスクの評価に関する研究，2021年10月～2023年9月

### 吉本 憲正

中国建設弘済会 技術開発支援制度，要素試験装置による2層地盤のせん断挙動解明のための新たな模型実験手法の開発，2022年4月～2024年3月

大成学術財団研究助成，二酸化炭素ハイドレートによる地盤改良技術の開発とカーボンリサイクル，2022年4月～2024年3月

高橋産業経済研究財団 試験研究，海底地盤中の二酸化炭素ハイドレートの存在状態の解明と地盤改良への利用，2022年4月～2024年3月

## あとがき

---

山口大学地域防災・減災センターは、2023年度、山口大学地域レジリエンス研究センターに統合され、新たに「山口大学地域レジリエンス研究センター防災・減災グループ」となりました。センターの活動は変わりなく引き継がれ、第9回「防災・減災講演会」、時間防災学セミナーを開催し、インドネシア国リアウ大学泥炭災害研究センターなどとの共催による国際シンポジウム、第3回国際同窓防災・環境オンラインセミナーを開催しました。地域での活動としては、宇部市の厚南・厚東地区で市内2回目のまちの減災ナース育成研修を開催し11名の新たな「まちの減災ナース」を輩出し、山口県内の減災ナースのネットワークが拡大しています。

2024年は能登半島地震に始まり、猛暑・台風・豪雨災害と、自然災害が既に、ごく身近な日常のそばにあることを実感します。災害多発の時代には、社会基盤を強靱化するハード面の知と、災害による過酷な試練にも折れず、人々の力で立ち向かうソフト面の知の融合が、より一層求められます。地域レジリエンス研究センターと生まれ変わり、分野横断・学際的なチームとして、今後一層持続可能な社会システムの構築に貢献いたします。

引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

副グループ長（山口大学医学系研究科保健学専攻地域・公衆衛生看護学分野教授）

牛尾裕子